

2018年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

三澤 里奈（東京都台東区）

【多くを学んだ広島での10日間】

私の想像をはるかに超えるものを与えてくださったこの事業への参加にあたりまして、ご支援を賜りましたことを厚く御礼を申し上げます。

私は、二つの目的を抱き、この事業へ参加をいたしました。

一点目は、広島についての見識を深めることです。広島で起きた8月6日の悲劇を、フィールドワークを通して直に学べたことは大変有意義でした。広島が標的となった理由は、爆心地周辺を注意深く歩くことにより、よく理解することができました。原爆ドームを見上げる度、原爆投下日の朝も、広島の人々の温かい日常の暮らしがあったことを想像せずにはいられませんでした。それを一瞬にして破壊した核兵器の脅威と、地球上に現在する核兵器の量を考えると、核兵器廃絶は世界規模で継続して取り組むべき問題であることを痛感しました。

プログラムの中で、被爆伝承は、特別に大切な時間となりました。自分の大きな認識の誤りに気付くことができたからです。被爆者の方々は、決して最初から自らの経験を語ることに前向きだったわけではないこと、また現在世界遺産になっている被爆の象徴である原爆ドームの保存に関しても、多くの葛藤があったという事実は知りませんでした。終戦が直ちに平和の始まりを意味していたのではなく、差別や復興への課題など、被爆者の方々にとっては新たな苦しみが始まりだったことも学びました。その経験を語り継ごうとする勇氣に感銘と敬意を覚えました。だからこそ、話を聞いた私たちが新たな語り部となり、次世代に繋いでいく使命があると思います。

二点目は、様々な考え、価値観や経験を持つ参加者たちとお互いを高め合うことです。このプログラムは、核兵器廃絶や脱原子力発電に向けて精力的に活動する数多くの団体や個人の方々の存在を、私に教えてくれました。平和実現へのアプローチは、様々な角度から実現できることを感じています。平和学の特別講義や発表、議論を通して、今後の自分の平和活動へのヒントやアイデアをもらえた点は大変良かったです。何より、このプログラム中に深めた友情は忘れがたいものとなりました。

【台東区への提案】

上記の事業参加をふまえ、下記2点を台東区へ提案いたします。

1. 「平和史跡マップ」多言語版の作成

台東区は、「平和史跡マップ」というガイドを発行しています。爆心地から受け継いだ被爆樹木や第二次世界大戦の戦災などを紹介するものです。現在、日本語版のみ発行されています。より多くの方にこのマップの存在知ってもらうため、多言語版を編集するということを提案します。

この提案は、私が広島から学んだことに基づいています。広島滞在中、プログラム中に1回、その他に3回、合計4回広島平和記念資料館を訪問しました。その中で、英語に翻訳された資料や字幕付ビデオ上映は、世界中の人々が広島と核兵器について深く学ぶことを可能としていることに着目しました。遺族に届けられた少女の持ち物についての説明文を読みながら、今にも泣き出しそうな人、広島原爆のことを子どもにつたえようとする熱心な両親の姿は今も記憶に残ります。このような広島市の熱意と取組は、倣うべきと考えます。

2. 伝承活動支援

- ① 戦争関連のパネル展示
- ② 戦争体験講話会への被爆経験者招へい

台東区では、平和事業の一環として、終戦記念日前後にパネル展示を行っています。東京大空襲の事柄が中心ですが、これに広島被爆関連の展示も増やすことを提案します。また、広島の被爆経験者は高齢化していることを考えると、伝承の機会を創る必要性があると考えます。広島県近郊出身や広島を訪問する人々と比べ、広島から離れた地域は原爆について詳細に知らないそうです。出張講話の機会があれば、東京の人々が広島の出来事について直に触れることができると思います。